

ルカ福音書 19 章 1-10

今日はルカ福音書にある話について話して行きたいと思います。ルカ福音書 19 章 1 節から 10 節までです。皆さんはこの話をよく知っていると思います。多分何回も聞いたと思います。今日の話はザアカイについての話ですね。

この話を読むたびにイタリアのピチェンシャに住んでいる男の人を思い出します。ビニシオリバさんは神経繊維種症で生まれました。説明は難しいですが簡単に言うと、体中に腫瘍がある病気です。ビニシオさんは特にその腫瘍が酷くて腫瘍のせいで 1 日の終わりには彼のシャツが自分の血で濡れてしまうことがよくありました。彼は他の人と違って見えたので、町の人から除け者扱いをされていました。周りの人に見下されて、避けられていました。人々は彼がバスの隣りに座ることを断りました。でも 2013 年の 11 月に驚くべきことを経験しました。子供の頃からかれはローマ教皇を一目見たかったのですが病のせいで見たことはありませんでした。でも頑張って教皇を見にバチカンまで出かけて行きました。教皇の出るイベントの場所に着いて一番前に立って待っていました。教皇がビニシオさんの前を通った時彼は自分の手を伸ばしました。すると驚いたことに教皇はかれをギュッと抱きしめて頭にキスしました。

皆さん、多分かれのような病気がなくてもこのような感情を経験したことがあるのではないのでしょうか。除け者のように感じたことはありませんか。他人が自分のことをどう思っているのか、考えたことがありますか。ときどき寝る前に日々の生活を反省しませんか。変なことを言っちゃった。私は今友達に軽蔑されているんじゃないかな。友達が二人で私を誘わないで出かけちゃった。どうしてかな。皆さん、友達から見捨てられたことがありますか。社会から疎外されていると感じたことがありますか。今日はよく除け者のように感じたザアカイの生活から学びましょう。裕福であるにもかかわらず、ザアカイは社会から疎外されています。彼は多くの点で除け者でした。そして今日の説教の中で皆さんになるべく彼の身になって聞いて欲しいです。出来るだけ彼の苦労とか寂しさとか虚しさも、よく考えて欲しいです。

今日の話に行く前に背景を説明させていただきます。イエスと弟子はカペナウムからエルサレムへ旅しているところですが到着する前にエリコに寄るつもりでした。でも到着する前に権威を持って教えたり目の不自由な人を癒したりしたので、その時までには多勢の人がイエスに従っていました。そしてこの話はここで始まります。エリコで。

イエス様がエリコにある通りにやってきたのを、街の住民のザアカイが見ました。すでにご存じのようにザアカイは金持ちだし身分の高い人ですね。彼は取税人でした。でもそれだけではなく、取税人のかしらでしたね。ギリシャ語で「arichitelones」と言います。この言葉はこの節以外、新約聖書の中でどこにも見つからないです。ルカは、読者にザアカイの重要性を指摘し、読者を話しに引き込もうとしています。ザアカイは財を成すため、地位を利用したので他の人に好かれていなかったです。ザアカイの仕事は町に住んでいる人の家に来てお金を取る仕事です。でもザアカイは賢い人でした。まあ賢いと言うよりずるい人と言ったほうがいいかな。とにかくザアカイはローマの軍隊に支えられていたので躊躇することなく皆んなから普通の税額だけじゃなくてももう少し金を取りました。そしてそのあと彼は政府に税金を渡して残ったお金を自分でキープしてしまいました。つまり詐欺をしてお金をもうけました。彼はたくさんお金があったし身分の高い人だ

ったけど、多くの点でこの社会の除け者でした。でも3節によると彼は好奇心が強かったです。彼はイエスがどんな方かを見ようとしました。

彼はイエスがどんな方かを見ようとしましたができませんでした。どうして。彼は背が低かったからです。彼は背が低すぎて群衆の向こうが見えませんでした。前に述べたように、イエス様に従った群衆は大きくなってきました。イエス様を好きな人もいたし、嫌っている人もいました。いずれにしても大部分の人はイエスに興味がありました。そしてザアカイも他の人たちと同じぐらい好奇心があって何としてもイエスを見なくては！という感じでした。想像して欲しいです。この状態で彼はすっかり慌てました。どうしよう。どうしよう。皆どいてどいて、イエスを見ないと。どいて。まあ僕は背が低すぎて無理かな。かれは大変困ったと思います。どうしたら皆の向こうが見えるでしょうか。一体どうやってこの状況に対処できるでしょうか。でも考えていると突然遠くにあるものを見つけました。そこには木があったのです。マジで完璧じゃないか。僕は背が低い。その木は高い。これはうまくいくぞ！。そしてあっという間にその桑の木まで急いで走っていて木のとっぺんまで登りました。彼はイエスが通り過ぎるのを待っている間に完全に息切れしてしまいました。イエス様は教えるのを途中で突然中止してザアカイを見て彼の名前を呼びました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」えっ、僕ですか。そうかイエスは人違いした。多分他のザアカイのことを言っている。少々お待ちください。でもすでにご存じのように、他のザアカイはいませんでした。

今まさにクライマックスに達しました。その時イエス様は、王の王、主の主、良い牧者、何もない状態からすべてのものを作った方は罪深いザアカイを見て暖かく言いました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」イエス様は一体どういうことをしたのでしょうか。ザアカイは取税人のかしらであるだけでなく犯罪人のかしらとも言えますね。イエス様はザアカイの家に泊まることをお願いではなく要求していました。要求していました。さすがイエス様ですね。でもすぐに6節によるとザアカイは早速木を降りて来て喜んでイエスを迎えました。イエス様は除け者を見つけて彼のところに来て受け入れました。イエスとザアカイはすごく嬉しかったけど周りの人はそうではなかったですね。次の節によると人々は文句を言いました。ちょっと待って、彼は罪人だよ。彼のところに行きたいの？マジかよ。今まで群衆はイエス様の奇跡が好きだったけど、ザアカイとの交際を望むのは行き過ぎだと思いました。さらに群衆の中で文句を言わない人は誰もいなかったです。全員文句を言いました。でも私たちによくあることです。他の人を自分たちのグループに受け入れるのは難しいですね。私たちのグループに入っている人が部外者を誘って誰かが加わってきたときイライラしますね。雰囲気は変わるし、変なことがよく起こるし、私たちはそういうことをあまり好みません。群衆はイエスの伝道について全く理解していませんでした。イエス様は除け者と罪人のために来ました。その大切なことが理解できませんでした。人種、国籍、ステータス、裕福かどうかを問わずイエス様は世界に救いをもたらします

今、この騒動が終結しようとしています。そしてこの出来事の一部始終についてザアカイ自身が驚いています。人々にお金を返すことにしました。ザアカイが考えたのはそのことだけだったのだと思います。彼が何を考えていたのか私には分かりませんが、ザアカイは、これまでに自分がたくさんのお金を不当に人々からとったことについて、考えたのだと思います。返さなきゃ。返さなきゃ。皆のお金を奪い取るのをやめなきゃ。そして彼はイエスに会って四倍にして返しますといいました。でもそれだけでなく財産の半分を貧しい人たちに施すことにしました。誰かがお金を盗んだ時にレビ記6章によると取ったお金

プラス5分の1を払うことになっていました。でもザアカイは四倍にして返すと言いましたね。一体どういうことでしょうか。実はもう一つ、立法がありました。出エジプト紀22章とサムエル第二12章によると犯罪者の場合は四倍にして返さなければならないことになっていました。つまりザアカイは自分のことを犯罪者だ、盗人だ、と思ったのです。しかし、彼は補償を熱望した犯罪者でした。これはイエスによって示された恵みに対する彼の反応でした。

そして次の節をご覧ください。イエス様は意味深いことを話しました。「今日救いがこの家にきました。この人もアブラハムの子なのですから。」イエス様を囲んでいた人々は、自分が特別な人種だから特別な権利を持っていると思っていました。でもイエスはそうではないと言いました。実は人種やランキングなどではなく、イエスキリストを信仰することによってアブラハムの子と言えます。人種じゃなくて信仰です。この話の始めではザアカイはイエス様を見たいという気持ちでいっぱいでしたが、後では彼はイエス様が自分を見たいと思っているという気持ちに気づかされました。イエス様は罪深い除け者のザアカイを見てくださいました。その結果、ザアカイは感謝の気持ちに圧倒されました。なぜかというと、ザアカイはそんなに愛情深い人、親切な人が自分のような愛情がない不親切な人に気がついて受け入れてくださるということを想像もしていなかったからです。どうしてイエス様はあえてザアカイのところに来たのでしょうか。1節をご覧ください。イエスはエリコを通っておられましたね。どうしてイエス様はそこで足を止めたのでしょうか。神学者のジャン・カルヴァンによるとそれはイエス様の驚くべき愛のゆえです。驚くべき愛。イエス様は驚くべき愛ゆえにザアカイに言いました。今日救いがザアカイの家にきました。

19世紀ロシアのクロンシタットでジョンという祭司が働いていました。その時市場は、汚くてどこも危なかったです。貧困や犯罪は多くて娼婦や泥棒がどこにもたくさんいました。そういうわけで大部分の人は夜になると家に居て出かけませんでした。他の祭司も牧師もそのまま家にいました。でもジョン祭司は違いました。かれは毎日きれいなシャツを着て街の一番危ない部分に入って娼婦や麻薬中毒者を見つけて目を合わせるようにその人の顔をあげて生き方について言いました。「こう言う生き方は君の品位を落とす。君は神様の栄光を現す為に創造された。

皆さん、ザアカイとこの話に出てくる人たちと私たちは大して違いませんね。クリスチャンなら、この話は私たちの話ですね。神様とずっと離れていたのに私たちはイエス様に受け入れられました。エペソ人への手紙2章によると、クリスチャンになる前に私たちは除け者でした。でも私たちは神様の栄光が現れるように創造されました。そして私たちが神様に反していた時イエスは神様へ宥めの供物として自分を捧げました。私たちのために神様はご自分の息子を呪われた者として死に渡されました。そこでキリストは最も呪われた除け者となって神様にすっかり見捨てられました。その時キリストは神様の子であると感じませんでした。天国から慰めの言葉はこなかったです。天使も、友達もいなかったです。誰も来なかったです。私たちが除け者であった時イエス様は来て目を合わせるように私たちの顔をあげて「今日救いがあなたの家にきました」と言いました。その結果私たちはもはや他国人でも寄留者でもなく聖徒たちと同じ国の民であり神様の家族とされたのです。

今もザアカイのように私たちは受け入れてもらい愛を探すために自分の桑の木に登る時イエス様は私たちを見てくださいますよ。神様は一度見てくださっただけではなく私たちを見続けて下さっている神様です。苦勞している時神様は私たちを見てくださっています。

寂しい時神様は私たちを見てくださっています。そして除け者のように感じる時神様は私たちを見てくださっています。また苦しい時神様はあなたを見てくださるだけでなくあなたと共にいます。そしてこの事実を信用していいですよ。なぜかと言うと、キリストはあなたに代わって神様に完全に見捨てられました。あなたが神様の完全な存在を感じるために、イエスは神様に完全に見捨てられたことを感じました。それで私たちは、見捨てられたと感じる必要はもないのです。どうして。イエス様の驚くべき愛のゆえです。

そしてその驚くべき愛によって私たちは勇気をいただいて、神様にならって、となり人を愛することができます。その愛のおかげで他の苦しんでいる人、希望がない人、除け者、ザアカイとベニシオのような人にも目を向けることができます。そしてこんな事をするコリント人への手紙第二 2 章 15 節によると、私たちは神様に捧げられた芳しいキリストの香りなのです。芳しいキリストの香りなのです。今日はイエス様の驚くべき愛を覚えていてください。今日一日神様はいつも私たちを見てくださっていることを覚えていてください。お祈りいたします。